

人権・同和教育講演会は、小倉くめさんの明るく陽気な人柄が会場いっぱいになり溢れた。くめさんには幼いころにいじめを受けた体験があるが、そのつらさを感じさせないような調子で話してくれた。くめさんの言葉と表情から不思議と元気が湧いてきた。講演会の前に、各クラスに数冊の「秘めたるま」(小倉さんが発刊している季刊誌)が置かれた。

この本の中に「家出」という題で高校三年生の女生徒のことが書かれている。彼女は親と喧嘩して家を飛び出したが、寂しくなり家に帰った。すると机の上に母からの手紙が置かれており、そこには子を思う母親の切ない気持ち綴られていた。読み終えた後、母への感謝が溢れ涙が頬を伝わっていた。「秘めたるま」を手にした人は心が温まり、穏やかにさせられる。

くめさんは「五戒」について分かりやすく話してくれ、人としての生き方やあり方を考えさせられた。

お話の中で特に特別支援学校の先生と生徒についての話

が印象に残った。計算のルールを正しく理解できていない生徒が周りからダメな子だと評価され自信をなくしていたが、先生は生徒が計算のルールを知らないだけなのだと気付いた。

この話は、決めつけと思ひ込みの恐ろしさを教えてくれるとともに、このようなことは、私たちの日常生活の中にもあることだと反省させられた。これは、差別や偏見につながることを思う。

「人はどんな時に一番つらいのか、それは認めてもらえない時だ」とくめさんは言う。認めてもらい必要とされることにより、自分の存在意義を感じることが出来ると教えていただいた。

くめさんから、今まで気がついていなかったことを具体的に話していただき教えられ、ことばかりだった。また、声の大きさと表情から熱い思いが伝わり、自分を大切に、人を大切に、この世の中の全てを大切にするということの必要性を覚えていただいた。今日の学びをまず家族に話そうと思う。

街路灯が寄贈されました

四国電力(株)西条営業所から、街路灯26灯が寄贈されることになり、昨年12月21日に市長へ目録が手渡されました。これらの街路灯寄贈は、「よんでんグループふれあい旬間」事業の一環として、明るいまちづくりに貢献しようと、平成4年から毎年行われており、今年度で合計751灯が寄贈されています。



- 次の方々からご厚志をいただきました。心からお礼申し上げます。(順不同 敬称略)
- まごころ銀行へ
- 個人
- 武田稔 (国安)
 - 穂月英隆 (実報寺)
 - 相原弘美 (丹原町湯谷口)
- 各種団体
- 西条南中学校
 - 黒住教周布教会所婦人部
 - (株)こっこー
 - いきいき歌体操吉岡サークル
 - ボーイスカウト西条地区第12団
 - 丹原地区愛護班連絡協議会

図書カードが寄贈されました

住友重機械労働組合連合会愛媛地方本部から昨年12月20日、市内の各小・中学校へ図書カードが寄贈されました。

同会では毎年、学校図書充実のために、図書カード寄贈に取り組んでおられます。



水鳥の小屋が寄贈されました

西条建築協同組合から昨年12月7日、小松中央公園遊水池に水鳥小屋が寄贈されました。市内建築業者209名でつくる同組合は、以前から、ボランティアとして夏彩祭での木工教室や小学校へのイスの寄贈を行ってきました。

今回の寄贈も「ボランティアを通して地域に貢献できた」と話していました。

水鳥たちが安全に羽を休めることができるこの小屋を、大切に管理・活用していきます。

